

小高町農業協同組合（JA小高町）



代表理事組合長	佐々木 清 明	役 員 数	18名
所 在 地	〒979-21 相馬郡小高町 西町一丁目88	理 事	15名（うち常勤 1名）
	☎0244-44-3004	監 事	3名
設 立 年 月 日	平成4年5月1日	職 員 数	88名（男60名 女28名）

I 地 区 の 概 況

当地区は、県の東部海岸、浜通りの北部に位置し、北は原町市、南は浪江町に接し、西は海拔500mの阿武隈高地、東は太平洋に面している。

地形は大きく分け、西部の阿武隈高地と東部の丘陵洪積台地および沖積平野となる。

交通は町の東部をJR常磐線とこれに平行して国道6号線が南北に縦走し交通網の基幹となっている。いわき市と67km、仙台市と85kmで結ばれ県都福島市には70kmの地点にある。

気象条件は、海洋性の温暖な気候で降雪はほとんどなく、農作物の栽培に恵まれた条件にあ

る。海岸沿いの平坦部では、夏は偏東風（ヤマセ）の影響を受け、比較的冷涼であるが、冷害を受けやすい。冬季は降水量が少なく乾燥した晴天が多い。

農作物は、東部地区では水稻が中心、西部では水稻の他秋冬だいこん・うどんなど畑作物の生産が多く、中部地区は養豚等畜産が盛んである。

文化観光では無形文化財である相馬野馬追、または小高神社、大悲山の磨崖仏及び大杉等が有名である。

Ⅱ 50年のあゆみ

1 地区農業の変遷

戦後10年にして復興の基礎づけを終えた、経済は昭和30年頃より高度成長を開始した。農業の発達、農機具農業資材の発達ともつながり、一方兼業所得の増加からくる購買力の増大は更に農業資材の生産を刺激し、農業にも大きな技術革新がもたらされた。

国民食糧の需要の変化にともない麦類、大豆、甘しょ等の栽培は皆無に近くなった。反面西部地区では野菜、まゆ、生乳の生産が増加した。中部地区では耕地をあまり必要としない購入飼料を主体とした畜産の振興に重点がおかれ、49年には養豚団地の建設等が強力に推進された。また、水田単作地帯である東部地区では耕地面積に比して収量が少な

く、海岸沿いの地域や井田川干拓などはいわゆる低位生産地と呼ばれていたが、水稻作の技術革新はもちろん早生種の早期栽培にいち早く取り組み、平均単収5～6俵どまりであったものが9～11俵に伸び、周囲の注目をあびた。各地とも以前にも増して大きく農業所得が向上した。

一方、40年新国道6号線が開通し、交通網の発達と同時に企業の進出が目立ち、農家の

主婦や後継者のほとんどが会社で働くようになり、兼業農家が急速に増加し農家戸数の減少も進行した。更に、45年から米の生産調整、減反、農産物の輸入自由化など厳しい農業情勢が影響したことは言うまでもない。

2 農業協同組合の設立と合併

(1) 設立

戦後、農地改革と農業会解散など大改革が行われ、昭和23年それぞれの町村の農業会の資産を引き継いで、小高町農業協同組合、福浦村農業協同組合、金房村農業協同組合が設立された。

小高町農協では23年2月26日創立総会が開催され、組合員630名、役員12名、職員15名、自

図表1 地区農業の変遷（農業センサスより）

年次		25	35	40	50	60	2
項 目	総 農 家 戸 数 (戸)	1,936	1,915	1,849	1,685	1,552	1,363
	うち 専 業 (戸)	998	721	329	149	129	100
	I 種兼業 (戸)	657	759	759	784	294	188
	II 種兼業 (戸)	281	435	574	752	1,129	1,075
	経 営 耕 地 面 積 (ha)	2,174	2,238	2,224	2,341	2,368	2,329
	うち 田 (ha)	1,521	1,508	1,542	1,708	1,761	1,773
	畑 (ha)	425	479	411	317	295	333
	樹 園 地 (ha)	228	251	271	316	313	223
	収 穫 面 積 (ha)	1,477	1,509	1,539	1,638	1,572	1,488
	稲 類 (ha)	262	270	146	1	11	13
	野 菜 類 (ha)	142	129	82	102	105	103
	果 実 類 (ha)	6	16	18	16	16	19
	飼 料 用 作 物 (ha)		28		136	183	181
	た ば こ (ha)	40	20	54	30	31	16
飼 育 頭 羽 数	乳 用 牛 (頭)	39	213	368	470	629	676
	肉 用 牛 (頭)	777	958	1,001	1,302	1,385	996
	豚 (頭)	185	469	1,895	8,415	14,832	17,614
	に わ と り (千羽)	4	14	24	2	1	11
	ブロイラー (千羽)			6	3	167	348

(注) ブロイラー 50年以降は出荷羽数

己資本26万4000円であった。

福浦村農協は23年2月28日創立総会が開催され、組合員658名、役員19名、職員11名、自己資本16万9000円であった。

金房村農協では23年2月16日創立総会が開催され、組合員702名、役員10名、職員8名、自己資本14万4000円であった。

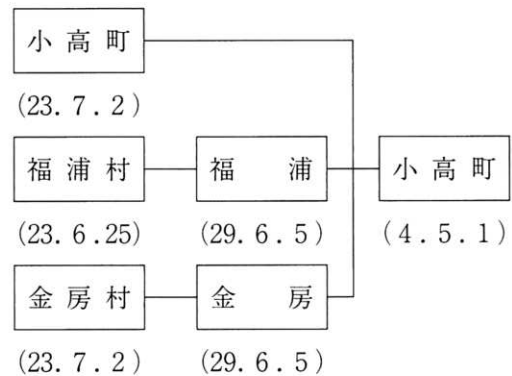
(2) 合併の経過

昭和43年に小高町内農協合併合同役員懇談会が2回開催されたが、実を結ぶまでに至らなかった。

その後、合併のことは幾度か話題になっていたが、62年になってようやく合併研究会が設立され、平成3年2月に小高町農協合併促進協議会が発足、4年1月に合併臨時総会を開催、5

月1日新「小高町農業協同組合」は誕生した。

図表3 合併等の経緯



図表4 合併参加農協の概要

組合名	組合長名	組合員数	役員数	職員数
小高町	松本日出男	1,012	12	23
福浦	荒木 静壽	762	20	32
金房	佐々木清明	893	14	34

図表2 主な勘定と事業の推移

(単位：千円、共済：百万円)

年度			24	30	40	50	60	4 (合併年度)	5
項目									
正組合員戸数(戸)			2,008	1,919	1,791	1,731	1,742	1,706	1,696
准組合員戸数(戸)			47	88	308	418	444	505	516
資 産	余 裕 金		5,168	45,802	340,329	1,233,799	3,779,882	7,817,157	7,638,380
	貸 出 金		5,155	54,913	292,650	1,829,225	4,325,263	4,446,754	4,876,859
	その他流動資産		34,555	25,051	81,443	968,685	1,949,275	1,897,504	1,812,352
	固 定 資 産		1,981	10,243	28,257	250,432	455,871	737,156	685,013
	外 部 出 資		546	5,794	16,679	52,435	129,014	197,184	201,590
負 債 及 び 資 本	貯 金		26,526	92,643	574,291	3,319,190	7,400,847	12,101,316	12,074,018
	借 入 金			27,211	77,897	295,976	1,207,243	259,749	185,295
	そ の 他 負 債			8,501	53,524	503,893	1,408,376	2,016,348	2,234,494
	出 資 金		1,020	12,681	40,221	155,219	445,770	557,610	555,036
	積 立 金		10	164	4,552	25,244	129,394	146,121	154,120
剰 余 金			-24	603	8,873	25,054	47,675	14,611	11,231
主 な 事 業 実 績	販 売 取 扱 高		21,833	247,543	702,528	3,566,672	4,565,930	3,312,497	2,389,763
	うち 米 穀			239,409	549,055	1,626,953	2,366,120	1,803,311	1,180,492
	青 果 物			2,888	2,560	181,642	383,658	386,072	317,834
	畜 産 物				76,964	1,523,323	1,463,239	979,206	807,757
	購 買 取 扱 高		13,347	56,130	185,602	1,688,600	2,533,014	2,206,821	2,085,238
	うち 生産資材			52,458	172,086	1,495,253	2,221,211	1,686,242	1,568,763
	生活資材			3,672	13,516	193,347	311,803	520,579	516,475
	長期共済保有高				1,264	11,599	86,458	140,057	147,819

(注) 合併以前の年度は合併参加農協の合計

3 小高町農業協同組合

(1) それぞれの苦難の克服と躍進

昭和23年に農業協同組合として設立はしたものの固定資産はほとんどなく、農協のイメージである米倉庫ひとつなかった。26年10月待望の米倉庫が完成し、自己倉庫に供米が入ったことは組合員の非常な喜びであった。

しかしながら、建設にこぎついた経過はいばらの道であった。25年3月役員会で倉庫建設について協議したが、経済の変動激しく当分見合わせるべきとの意見が多く断念した。建設実現の念願止みがたく7月臨時役員会を開き、政府補助による農業倉庫建設の申請書を出すことに決定した。

翌年5月の総会では延期すべき声もあったが原案通り決定した。これに伴い毎年1反当たり100円の増資運動を展開することになった。

その後、27年の総会では第2号米倉庫の建設を決定、翌28年には事務所建設を満場一致で決定し12月に新事務所が落成した。米の生産増加に伴って42年に第3号米倉庫を建設した。

60年に新事務所の建設が検討されたが、合併の話があってもなかなか結論がでなかったが、62年に旧店舗の後に近代的オフィスを新築した。現在は小高業務所の事務所として利用している。

(2) 営農指導を中心に

昭和33年に営農指導係を設置するまでは、農業改良指導所が農協事務所内に設置されていたために普及所を有効に活用していた。一粒でも多く米を取る時代であったので、新技術には農家の関心が極めて高く普及員は昼夜を問わず飛び回っていたので、改良普及員ならぬ「不眠不休員」の異名を貰っていた。24年頃の普及員の

唯一の機動力は「緑の自転車」1台であった。29年になってようやく原付自転車が配車されて機動力が強化された。

農事研究会の活動も活発で各方部に4Hクラブ等のグループが誕生し、研究発表も年々盛んになり全国大会に4名も出場した。

多収穫展示圃、肥料実証圃等が随所に設置され、農業者と普及員が一体となって運営した。汗と泥まみれの活動を支えたのはPTA的存在であった農業改良推進委員会が物心両面にわたって援助してくれたことと農業者の旺盛な意欲であった。

28年は「相馬の冷害」が発刊されるほどの未曾有の冷害の年であった。収量が少しでも多い晩生種（農林10号・晩生銀坊主）が普及していたことも被害を大きくした。特に冷水田、多肥田、晩植田などは9月になっても出穂せず、また稔らない穂は天をむなしく仰いでいた。救農土木事業や種籾の手配、自家用米の確保等冷害対策が次々と打ち出された。翌29年も天候不順で2年続きの不作に見舞われ、農家経済は容易でなかった。

この年に農家経済自立促進二毛作増産運動が展開された。

水田三原色運動	青 — 麦
	赤 — れんげ
	黄 — 菜種

(3) 養豚団地の造成

33年小高指導所が廃止され原町農業改良普及所の管轄になった。34年に営農指導員1名設置した。

29年に、耕地面積が少ない当地区の農家所得を上げるために役員会で畜産事業の振興対策が検討され、畜産部会の設立、家畜導入資金・畜舎建築資金の貸出等の畜産農家育成のためのい

ろいろな手段が講じられた。

39年からは仔豚の生産から肉豚の販売までの一貫体制を打ち出し、実施計画を樹立して実行に移した。

48年には、各地で畜産公害が問題とされるようになり、この解決と規模拡大のために団地造成構想が決定された。通勤養豚と称して市街地から離れた吉名地区の山中に、養豚農家9戸が一か所に集中したこれまでとは桁違いの大型団地が形成されたのである。

1戸当たり母豚90頭、常時飼育頭数2000頭の規模で始まり、飼育規模・販売実績とも東北一と言われるまでになった。

60年頃から、輸入自由化による価格低迷等のため経営が困難になり、廃業する農家が次々とでて現在は4戸となった。

4 福浦農業協同組合

(1) 農村復興めざし食糧増産

戦中からの食糧、肥料の不足や経済混迷を引き継ぎながら食糧の増産に努めた。当時は霜柱を踏んで稲刈りをする晩稲品種が主で、常に冷害を受けていた。昭和28年は大冷害の年でわずか5778俵の取扱であった。冷害は翌年も続いた。

当地区では地区の地形上から稲作に主力を注ぎ、「藤坂5号」「とわだ」等の早生品種を導入して短期間に5万俵の生産力までに拡大し、政府米の在庫不足で制定された早場米の締切の9月30日までに3万俵を越える出荷をする力量となった。県内では会津の新鶴村と肩を並べる程で、河野一郎農林大臣表彰があった。

(2) 農作業受委託事業の実施

米の増産から良質米の生産へと時代が進み、トヨニシキ、ササニシキ、コシヒカリと栽培技

術体系を良質米の生産に転換してきた。さらに農薬残留が問題となるようになり無農薬栽培、省農薬栽培へと変化している。

昭和51年から東都生協との産直に取り組み、モチ米の取り扱いを正月用から3月ひな祭り、5月子供の日まで拡大した。

良質米生産を充実するために米の集荷体制を改善した。ローラーコンベヤの設置や予備検査の実施等により1等米の生産出荷に努力した結果、1等米98%を達成することができた。

40年代当初から原発建設に地域の基幹労働力が奪われ、秋の収穫もピンチとなり、49年農作業の受委託事業を開始した。コンバイン、ライスセンターの設置、ホークリフト、パレット方式等の導入、請負耕作の実施、農地利用権の設定等全国的にも先進的な役割をはたした。

(3) 生産資材の便乗値上げ阻止

昭和48年、円高差益をもくろんだ輸入業者が港湾のハシケにストックした飼料を見つけたし、飼料不足を解消し価格を元にもどしたことや、農機具のヤミカルテルを農林省命令で価格引き下げを実施させた。また、豊作で県内6万俵の超過米が発生したが、全量を政府米の枠拡大で買い上げさせた。

52年、全国連直接加入が実現し福浦農協は全農の総代に初代から3期9年間選任された。この間、60年の肥料原料輸入価格が、前年比尿素で57.8%、燐鉍石29.4%、塩加40.1%ダウンしても値下げしない全農から32億円還元させ大幅価格引き下げを実施させた。

(4) 複合経営への取り組み

「口のついたものは片口もいらん。弁当箱1つで1日7000円以上になる、弁当箱でニワトリや豚が育てられるか。」そんな会話が交わされる中でも120名の生産部会員が育ち奮闘した結

果、昭和60年に販売高15億円を達成した。

この活動を通じて特に注意を払ったのは、農家に固定負債の発生をさせないことであった。決裁サイトを3か月に設定しサイト内精算を実行した結果、固定負債の計上が非常に少なかったのは農家の自覚と役職員の努力の賜物であった。

その後、農業情勢の変化もあって複合経営の根幹に迫ることができず、60年をピークに年々生産が低下し米依存度を改善する努力が続いているが総生産高の98%が米販売高となっている。

(5) 生活と健康を守る活動

東都、鶴岡、宮城の生協と交流を深め生協の活動に学びながら、昭和43年から地域毎にホームサークルをつくり、「安全な食糧は自分の大地から」をスローガンに活動をした。自給野菜研究で年間どれだけ自給できるかと家庭菜園づくりを普及した。食品添加物、洗剤の研究は共同購入事業に発展し、河川や海を汚さない自然を守る運動に展開した。輸入農産物のホストハーベストや残留農薬、横浜港の輸入食品のズサンな管理を現地で見聞しながら輸入食品の流通も研修した。

長野佐久病院や沢内村の健康を守る活動の影響で、41年双葉厚生病院を拠点に健康診断を実施した。これが現在の年金友の会が婦人部と協力して実施している健康診断に引継がれている。

(6) ガソリンスタンドの建設

農業の機械化は耕耘機から始まった。当時、軽油、ガソリンの類は経済連経由で塩釜から2トン車でドラム缶で供給されていた。需要が高まり連日塩釜に通うようになり、ガソリンスタンドの建設の要求が強くなった。

昭和48年のオイルショックによりスタンドの

新設が凍結されたので、現在のスタンドの裏になる所に貯蔵タンク2基を埋設して相双地区の農協にも油種の一部を供給した。その後、経済連の福島事業所のスタンド権利を移転することでスタンド建設を取り組み完成オープン目前に、福島事業所管内の農協からクレームがついて暗礁に乗り上げてしまった。役員3名が経済連の専務理事をしていた会津若松市農協の松山組合長に泊り込みで交渉し、同農協の山間地にあるスタンド権利を移動して頂いてオープンに漕ぎつけた。石油取扱手数料がそれまでの75万円から1365万円となり、農協経営の基盤づくりとなった。

51年、石油業界は為替差益が800億円も予定されていたながら、その3月から値上げを実施した。福浦農協ではその不当性を主張して値上げを実施しなかった。7月末にようやく全国的に値下がりしたが、この活動で福浦農協スタンドは利用高県下21位を維持するようになった。

(7) 事務所の新築

創立当時の職員が16名で勤務していた事務所スペースには、多少の改善はしたものの30名で働くには無理があり、オンラインの機器等を設置する環境ではなくオンライン化は県内最後の年となった。

役員会では、事務所建設の検討を3年間も続けていたが、組合員の合併要求や慎重論に分かれて建設は見送られていた。しかし、昭和57年には限界に達し、8700万円の事務所建設を総会に提案した。総会は賛否両論が平行線をたどり、ついに投票決定となり僅かの差の賛成で建設が決定した。

創立34年にして近代的な事務所が新築されて、名実ともに地域センターとしての農協の役割を果たすことができるように整備された。

5 金房農業協同組合

(1) 昭和20年代 基礎作り

終戦直後の混乱期に進められた農地改革は、当時の農村社会を根底からゆさぶり、小作農民の88%が希望に満ちた自作農民として誕生した。しかし、経営規模は依然として零細で経営内容にはさしたる変革がなく、乏しく苦しいものであった。社会混乱と不況は農村にも否応なく侵入し、闇取引が横行し終末の様相さえ感じられた。

金房村農協はこうした時期に700組合員の期待と希望を担い、高い理想と情熱に燃えて創立された。極端な食糧難に加えて物資の不足が続き、特に食糧の増産が強く叫ばれた時代であった。また、肥料や飼料、生活物資まで統制配給され、1俵の肥料も数人で分け合い、荷車やリヤカーあるいは背負って運ぶと言う光景がよく見受けられる時代であった。

25年度決算で20万円の赤字となり役職員の責任問題となった。26年度は赤字をかかえ涙ぐましい努力の結果、職員の中には赤字の一部を負担した人などもあって赤字を半分に減らし危機を乗り切ることができた。翌27年度は完全に解消し5万円の黒字となり、今日の繁栄の基礎を築いた。

(2) 昭和30年代 試練の水害

33年9月26日超大型台風22号が地区を直撃した。下町倉庫が床上30cmから1m浸水し、米麦合わせて464俵、また肥料等に莫大な被害を受け、組合運営上容易ならざる支障をきたすと役員・組合員一方ならぬ心痛であった。

翌34年水害の恐れのない倉庫と事務所を作りたいと計画、吉田組合長の下に組合員一丸となって収容能力2万俵の大谷石造りの倉庫と木造二

階建ての新事務所を35年に完成した。

その後、米優良集荷業者、優良保管業者として農林大臣賞・全販連会長賞など毎年のように表彰を受け、繁栄伸展の大道を驀進していくための試練の水害であった。

(3) 昭和40年代 農業生産の飛躍

40年代になって開田ブームが到来した。畑の水田転換・山林原野の開田が進み、農協発足当時の水田420ha、米集荷数8600俵に対し、44年には面積は200ha増加し、集荷数は3万5000俵と実に4倍に伸びた。

しかし、45年から米の生産調整が実施されると、地区の農業経営も徐々に水稻中心から47年農水省の野菜指定産地になった秋冬だいこんなどの畑作や養蚕・畜産との複合経営に移った。

36年1億6000万円であった販売高が51年には3億8000万円と飛躍的に伸び、農家経済・農協経営に大きく貢献した。

(4) 昭和50年代 農業振興と活動の再構築

組合員のほとんどが兼業の時代となったところに、55年の歴史的な凶作は農業に対して大きな不安と動揺をもたらした。農協運動や活動に対する関心も薄れ、農業の再構築と農協事業の見直しが大きな課題となった。

地域の主要作物である水稻は、生産調整が第3期目となり量から質への転換が求められた。コシヒカリを中心とした銘柄米生産体制確立がその具体策の一つであった。しかし、55年の大冷害に続く4年間の不順天候は銘柄米に特に酷く、組合員に不安をもたらしたが、理解を得て銘柄米生産の30%以上の定着を確立させた。

第2の作物である養蚕は輸入攻勢に対応するために、大規模共同稚蚕桑園の造成、省力化などを図り生産の維持拡大に努めた。

40年代後半によりやく共販体制にこぎつけた

秋冬大根は、生産技術の確立、出荷規格の統一、計画販売などにより銘柄化が確立できた。

農協に対する関心を高めるため、組合員との学習を新たに企画し継続的に実施した。1泊2日のスケジュールで協同組合の基本的な考え方、地域農業振興や事業の取り組み方、協同活動のあり方などについて講演を聞き、参加者同志の討議を行い意志の疎通を図り、事業の理解を求めると同時に組合員のニーズの把握に努めた。

組合員家族や地域の方々がかぞって参加できる行事として、55年から「農協祭」を実施した。当初は組合員だけの感があったが、企画委員に組合員の各年代層代表や地域の有識者などを充てることなどで多彩な行事としたため、員外者を含め年代を越えた行事として定着させること

ができた。

農業と農協協同活動に質的な変化を創ることに努めた時期であった。

(5) 現在

農業の機械化が進む一方で企業が進出してきて、農家や農家の後継者の多くが会社勤めをするようになり、兼業化が進み農業生産が年々減少してきた。

この傾向に歯止めを掛けるために60年に地域農業振興基本計画を樹立した。農家所得700万円の目標にしたが、農畜産物の自由化による慢性的な価格低迷と農業を取り巻く環境は厳しさを増し、歯止めがかからず専業農家は10%を切り、農業生産と生活の環境が予想以上に変化し現在に至っている。

Ⅲ 年 表

年 月 日	主 な 事 績	年 月 日	主 な 事 績
23年		9.29	3農協で肥料価格協定
2.16	金房村農業協同組合創立総会	26年	
2.26	小高町農業協同組合創立総会	6.25	第3回通常総会（25年度決算20万円の赤字）（金房）
2.28	福浦村農業協同組合創立総会	9.24	桃内倉庫落成（福浦）
6.25	福浦村農業協同組合発足	10.10	第1号米倉庫落成（小高）
7.2	小高町農業協同組合発足	11.23	農民祭（福浦）
7.2	金房村農業協同組合発足	27年	
7.31	各県連に加入（小高・福浦・金房）	3.5	オート三輪車購入 運送業開始（金房）
8.14	各農業会解散	10.20	第2号米倉庫落成（小高）
8.15	事業開始	28年	
10.21	金房村生活協同組合解散（金房）	10.14	凶作危機突破三郡農民大会（原町小）
24年		12.28	新事務所落成（小高）
3.23	太田秋之助と井田川倉庫売買契約締結（福浦）	29年	
7.15	簡易郵便局受託事務開始（金房）	1.8	青年連盟結成総会（福浦）
11.19	2周年記念行事農民祭（福浦）	3.31	小高町、福浦村、金房村合併して小高町となる
25年		5.1	苗代一斉診断（福浦）
3.30	子供協同組合結成（福浦）	6.5	福浦農業協同組合と名称変更
7.1	農機・自転車修理工場設置（金房）		

年 月 日	主 な 事 績	年 月 日	主 な 事 績
6. 5	金房農業協同組合と名称変更	9.10	事務所上町に移転（金房）
6.27	町指定金融機関となる	11.23	下浦倉庫落成式（福浦）
7.15	倉庫事務所で貯金業務開始（福浦）	36年	
10. 1	技術指導員を設置（金房）	2.13	肥料倉庫火災焼失（金房）
10. 1	婦人部結成（金房）	5.29	貯蓄優績 農林中金支店長表彰（福浦）
30年		6.20	米価引上要求運動広報活動実施（福浦）
3.10	くみあい定期貯金530万円達成（金房）	6.27	共済優績 全共連表彰（金房）
4.16	種苗市（3農協共催）	8.14	有線放送事業設計決定（小高）
7.18	家庭薬配置業務開始（福浦）	9.30	資材倉庫敷地購入（113坪）（小高）
11.21	小高方部牛馬耕大会	11.30	資材倉庫新築（金房）
11.28	本所事務所を女場事務所から小高事務所に移転（福浦）	37年	
31年		2. 2	大場式噴霧器を各集落に無償交付（小高）
2. 1	共済事業開始	2.10	川房地区水田基盤整備事業開始（金房）
4. 1	事務所を小高駅前に移転（金房）	2.22	若齢肥育牛事業開始（小高）
4. 1	農青連発足（金房）	3.28	年度末特別貯蓄推進運動展開（小高）
4.25	30年度産米販売実績優良表彰（福浦）	7.16	土壌線虫防除器具1式購入（小高）
7.17	野菜共進会（大井集落）（小高）	9.12	共済優績 全共連表彰（福浦）
32年		10.31	購買倉庫落成式（小高）
2.18	納税貯蓄組合結成（金房）	38年	
5.13	青年団主催 苗代品評会（小高）	5.17	優良農業倉庫 全販連表彰（金房）
5.30	貯蓄優績農林中金支店長表彰（金房）	7.20	直営理容所開設（小高）
6. 6	N H K主催 早苗振大会参加（小高）	7.29	貯蓄奨励招待旅行（金房）
11. 1	女場事務所閉鎖 小高事務所への移転完了（福浦）	11. 3	小高地区農協農業機械サービスステーション発足
11. 9	貯蓄増強ヘリコプター宣伝実施（金房）	39年	
12.22	女場倉庫竣工落成（福浦）	4.23	養蚕事業実施決議 養蚕部発足（金房）
33年		6.10	共済優績 全共連表彰（金房）
4.26	設立10周年記念式（小高）	6.12	共済優績 全共連表彰（小高）
5.29	貯蓄優績 農林中金支店長表彰（金房）	11. 4	貯蓄報奨ヘリコプター搭乗実施（小高・金房）
9.26	台風22号上陸 大水害発生	11.30	小高町農事放送農業協同組合連合会発足
11.30	酪農部会結成（金房）	40年	
11.30	養鶏振興会発足（金房）	4. 1	小高町農事放送連業務開始（小高・福浦・金房）
34年		6. 1	小谷・南鳩原構造改善事業開始（金房）
1. 9	営農指導員設置（小高）	11.24	農協大会 優良農協表彰（金房）
5.30	系統利用優良 経済連表彰（金房）	41年	
7.23	町内農協合併促進合同役員会	1.10	40年産米2万俵出荷記念し出荷者にオイル交付（小高）
9.23	優良農業倉庫表彰（福浦）	9. 4	稚蚕共同飼育所完成（金房）
11. 7	共済1億円達成 共済連表彰（福浦）	9.13	肥料倉庫落成（小高）
11.16	農業倉庫上棟式（金房）	9.25	台風25号冠水被害発生（福浦）
35年		10.14	農薬倉庫落成（小高）
1.16	農業倉庫新築登記（金房）	10.18	摩辰集乳所完成（金房）
3.15	米売渡優良表彰 農林大臣賞（金房）	42年	
3.26	1日皆貯金運動展開（小高）	3.17	川房桑園造成事業完成（金房）
5. 1	事務所上棟式（金房）		
6.30	共済優績 全共連表彰（小高・福浦）		

年 月 日	主 な 事 績	年 月 日	主 な 事 績
3. 23	子供協同組合 貯蓄優績信連表彰(福浦)	8. 6	米出庫協力拒否指令(福浦)
8. 1	貯蓄奨励招待旅行(金房)	8. 26	労農問題研究集会(福浦)
9. 8	草地造成事業着工(金房)	12. 8	養豚団地上棟式(福浦)
9. 13	自賠責共済集落出張受付開始(金房)	12. 20	蕨販売高3億2000万円突破(金房)
11. 5	第3農業倉庫落成式(小高)	49年	
43年		3. 20	水稻育苗センター(50ha)増設(小谷) (金房)
10. 9	農協合併役員懇談会	5. 17	農協の日(月1回職員総員外務活動日) 設定(小高)
10. 15	資材倉庫落成式(金房)	6. 7	受委託事業部会設立総会(福浦)
11. 23	農協大会 優良農協表彰(福浦)	8. 20	イモチ病ヘリコプター防除開始(小高・ 金房)
12. 25	農協合併役員懇談会	9. 13	ホームサークル設置(福浦)
44年		11. 15	県収入証紙売りさばき業務開始(小高)
3. 12	冷蔵庫・クミアイ布団特別招待旅行(金 房)	11. 18	ライスセンター建設(福浦)
6. 11	農政危機突破要求米価貫徹小高地区大会	11. 30	農協共販所閉鎖(金房)
12. 12	養蚕者大会(金房)	11. 30	飼料倉庫新築(金房)
12. 20	米販売3万5000俵突破(金房)	12. 14	吉名養豚団地落成式(小高)
45年		12. 16	農業問題研究集会(福浦)
2. 6	蛭沢倉庫落成式(福浦)	12. 20	野菜集荷所完成(金房)
3. 6	どじょう養殖に取り組む(福浦)	50年	
4. 7	蛭沢低温倉庫にドラクローラー設置(福浦)	4. 25	会計機(カセットターミナル)導入(金 房)
4. 17	獣魂祭(小高)	7. 15	購買品展示場完成(金房)
6. 4	肥育牛共励会(芝浦市場)(小高)	9. 25	第1回肉牛共励会(金房)
10. 1	肉牛預託事業開始(金房)	10. 20	ガソリンスタンド落成式(福浦)
11. 1	稚蚕共同飼育所増改築(金房)	11. 16	米販売4万俵達成(金房)
46年		12. 25	井関トラクター一斉引渡式(福浦)
3. 25	水稻育苗センター完成(100ha)(金房)	51年	
4. 1	農業者年金取扱事務開始	3. 15	県畜産物価格安定基金協会加入(小高)
5. 20	資材倉庫上棟式(福浦)	6. 24	稲作部会設立総会(小高)
6. 10	ブロイラー・肉豚の共販取組開始(小高)	7. 17	子牛育成センター落成式(小高)
9. 1	「農協だより」第1号発行(金房)	8. 11	集送センター落成式(福浦)
10. 30	町田市で第1回産直実施(金房)	8. 21	原子力シンポジウム(福浦)
47年		8. 27	全国畜産経営安定基金に加入(小高)
1. 27	優良農業倉庫表彰 農林大臣賞受賞(小 高)	10. 21	冷害対策(福浦)
3. 20	農機SS 自動車車検整備開始	11. 1	秋冬だいこん一元集荷多元販売(金房)
8. 1	配置購買実施(金房)	11. 8	農機SS 車検場完成(3農協共同)
8. 15	秋冬だいこん野菜指定産地の指定(金房)	12. 29	LPガス庫落成(小高)
9. 27	ライスグレーダー実演会(金房)	52年	
10. 10	洋服戸別訪問一斉推進(金房)	5. 1	企画相談室設置(福浦)
10. 10	電子レンジ一斉推進120台普及(金房)	5. 2	小高地区農協合併調査研究会
48年		5. 26	系統利用優良 経済連表彰(福浦)
2. 19	米包装を樹脂袋に変更(小高)	7. 21	Aコープ小高店開店式(小高)
6. 3	若妻会発足(福浦)	9. 1	信用業務電算移行
6. 10	LPガス貯蔵庫工事完了(金房)	11. 19	農協大会 増資優良農協表彰(福浦)
6. 19	吉名養豚団地地鎮祭(小高)		
7. 1	LPガス購買開始(普及率72%)(金房)		

年 月 日	主 な 事 績	年 月 日	主 な 事 績
53年		12.23	君ヶ沢桑園造成起工式（金房）
4. 9	30周年記念行事（小高）	57年	
4.16	30周年記念史「金房農協のあゆみ」刊行（金房）	3. 9	君ヶ沢桑園造成落成式（金房）
5.26	畜魂碑除幕式（小高）	4.12	オンラインスタート（小高）
5.26	系統利用優良 経済連表彰（金房）	5.18	共済優績 全共連表彰（福浦）
7.20	Aコープ開店1周年記念（小高）	5.19	第2回種苗市（～20）（小高）
7.22	農協合併問題研究集会（福浦）	5.23	九州旅行（～28）
54年		6.22	ライスセンター落成式（小高）
2.13	四国旅行（～18）（小高）	6.30	下町倉庫取り壊し返還(50年の歴史に幕)（金房）
3. 7	県プロイラー共励会で表彰受賞（福浦）	9. 6	新事務所（女場）営業開始（福浦）
8. 6	地域農業振興計画策定着手（金房）	9.10	水稻育苗センター廃止（金房）
11.24	第1回養蚕者大会(上繭20万kg目標)（金房）	10.20	ニラ生産部会設立 転作田にニラ導入（金房）
11.28	年金友の会結成大会（小高）	11. 6	農協祭売出し（～7）（小高）
12. 1	銘柄米 コシヒカリに統一（金房）	11.26	繭販売高3億9000万円達成（金房）
12.10	ハワイ旅行（～16）（小高）	12.24	Aコープ閉店大売出し（～26）（小高）
12.12	農業倉庫上棟式（金房）	58年	
12.18	肉牛繁殖部会発足（金房）	2.21	オンラインスタート（金房）
12.31	貯金残高23億円突破 戸当352万円（金房）	2.26	営農類型設定基本構想設定(所得目標700万円)（金房）
55年		3. 9	堆肥盤完成（福浦）
1.10	第2回ハワイ旅行（金房）	5.11	ガス事業認可（福浦）
1.25	秋冬だいこん販売高3億4000万円突破（金房）	5.16	オンラインスタート（福浦）
5.21	共済優績 全共連表彰（福浦）	5.20	共済優績 全共連表彰（金房）
6.10	コシヒカリ作付け37.9%目標突破(金房)	5.26	系統利用優良 経済連表彰（金房）
6.15	春蚕掃立1000箱突破（金房）	5.30	ガス貯蔵庫落成式（福浦）
9. 1	異常天候災害対策	6. 3	黄化萎縮病大発生（福浦）
11.15	年金友の会設立総会（金房）	6.10	北海道旅行（小高）
11.22	第1回農協祭（～23）（金房）	9. 5	米倉庫にシートパレット方式採用(福浦)
12.20	冷害深刻 米集荷量平年の30%（金房）	10.15	農機SSコンピューターエンジン診断機導入
12.25	「農協だより」100号発刊（福浦）	11.12	第1回農協祭（～13）（小高）
56年		59年	
2.15	若妻会結成大会（小高）	2.22	小谷養蚕支部 農林水産大臣賞受賞（金房）
5.20	共済優績 全共連表彰（福浦・金房）	5.23	共済優績 全共連表彰（福浦・金房）
6. 2	山陰旅行（～6）（小高）	5.25	農機具安全作業研修会（金房）
8. 5	婦人部・若妻部会合同バレーボール大会（小高）	6.11	イネミズゾウムシ羽倉で発見（金房）
8.17	年金友の会設立（福浦）	6.15	低温 春蚕掃立1月遅れる（金房）
9.18	米抽出検査導入（金房）	8.15	全国JA間ネット取引開始
9.30	秋冬だいこん作付け85haになる（金房）	11.26	米5万1700俵集荷（福浦）
11.25	農青連 組織活動実績発表で最優秀賞受賞（金房）	60年	
12. 9	旅行友の会結成（小高）	1.19	婦人部・若妻会・農青連交流会（金房）
12.15	ライスセンター地鎮祭(片草地区)(小高)	2.10	モチ米生産団地の指定（金房）
		4. 3	小高養蚕農協吸収合併（小高）

年 月 日	主 な 事 績	年 月 日	主 な 事 績
5.23	共済優績 全共連表彰（金房）	7.20	春蚕 繭内渡し金史上最高2300円
5.24	イネミズゾウムシ大発生80ha 前年の3倍（金房）	7.23	支部長・役員海外研修（金房）
7.19	夕市（福浦）	9.10	農業倉庫落成式（有山）（福浦）
8. 8	プロパンガスの配送経済連に委託（金房）	11.11	第10回農協祭（～12）（金房）
12.20	「農協だより」100号発刊（金房）	11.21	東京イベント ふるさと相馬農讃祭（～27）（小高・福浦・金房）
12.26	ふる里相馬の味宅配事業開始（金房）	2 年	
61年		2.20	「農協だより」120号発刊（金房）
3. 4	レンコン栽培導入（福浦）	5.17	共済優績 全共連表彰（福浦・金房）
4.11	共同のA T Mスタート（小高・福福・金房）	9. 1	食材宅配事業開始（福浦）
4.24	養蚕婦人部 繭質改善で最優秀賞受賞（金房）	9.14	臨時総会（畜産加工施設取得）（小高）
5.22	共済優績 全共連表彰（福浦・金房）	3 年	
8. 4	集中豪雨で水稻に被害発生（福浦）	1.20	2・3号倉庫（井田川）解体（福浦）
8.22	農民大学講座（金房）	2.18	ハッピーベジタブル発足（福浦）
10. 5	低温農業倉庫完成（金房）	2.28	農協合併促進協議会発足総会
11.15	農協祭 ヘリコプター遊覧（～16）（金房）	5.23	共済優績 全共連表彰（福浦・金房）
12.15	野菜予冷库完成（金房）	5.28	合併問題懇話会
62年		7. 1	食材宅配事業開始（金房）
1.17	農家後継者の会 栗子でスキー交流会（～18）（金房）	12.24	小高町農協合併仮契約調印式
2. 7	エコ有機米生産部会設立（小高）	4 年	
5. 1	転作にウド2ha 導入（金房）	1.19	合併臨時総会
5.21	共済優績 全共連表彰（金房）	3. 7	食肉加工処理施設「小高ハム工房」落成式（小高）
8. 8	事務所改装工事完成（金房）	5. 1	小高町農協・福浦農協・金房農協合併して小高町農業協同組合発足
11.18	事務所落成式（小高）	5.21	共済優績 J A 全共連表彰（福浦・金房）
11.27	東都生協に省農薬米617俵販売（福浦）	5.25	葬祭事業開始
12. 6	畜産農家のパソコン経営分析（福浦）	6. 1	婦人部設立総会
12.10	農協合併研究会設立	9. 8	合併記念定期性貯金抽選会
63年		10.18	長期共済契約者研修旅行（～19）
1.20	ユメの里を創る会議（福浦）	11. 7	第1回 J A 秋まつり（～8）
3.25	農産加工場落成（金房）	12.15	地域営農推進協議会
3.27	新規作物ウド初出荷（金房）	5 年	
5.19	共済優績 全共連表彰（福浦・金房）	1.26	沖縄の旅企画旅行（～28）
7.30	コイン精米機設置（金房）	4.17	第1回通常総代会
8.28	冷害による水稻不稔粒被害甚大（福浦）	5.18	系統利用優良 J A 福島経済連表彰
8.30	ハイコープ豚研究会発足（小高）	5.20	共済優績 J A 全共連表彰
10.10	資材倉庫完成（200坪）（金房）	5.15	種苗市（～16）
10.15	55年以來の冷害 被害額6億円（金房）	7.23	東都生協と交流
11.23	小谷養蚕支部 天皇杯受章（金房）	9. 5	長期共済契約者研修旅行（～6）
12. 1	購買事業オンライン稼働	11. 6	第2回 J A 秋まつり（～7）
元年		12.22	地域営農推進協議会
5.18	共済優績 全共連表彰（金房）	6 年	
6.21	豚肉加工事業先進地研修（小高）	1.29	農家後継者の会 スキー交流会
7.15	親子盆踊り大会（小高）	2. 2	農政活動組織検討
		2. 3	東都生協と交流（東京）（～4）

IV 資 料

(平成5年度末現在)

1 組 合 員 ()は戸数

正 組 合 員		准 組 合 員		合 計	
個 人	法人	個 人	団体	個 人	法・団
2,133 (1,694)	2	525 (516)	28	2,686 (2,238)	30

2 役 員 及 び 参 事

代表理事組合長	理事 桶 谷 天 二
佐々木 清 明	理事 松 原 功 典
理事 松 本 日出男	理事 林 重 治
理事 平 田 良 則	理事 (欠 員)
理事 小 林 正 幸	代表監事
理事 石 川 昭 男	井戸川 宏 綱
理事 鈴 木 森 介	監事 水 谷 堯 宣
理事 阿 部 良 信	監事 梅 田 利 昭
理事 渡 部 義 綱	
理事 古 内 弘 助	
理事 渡 部 栄 助	
理事 高 橋 亮 堯	参事 木 幡 堯 男

3 職 員

男	女	計	うち営農 指導員	うち生活 指導員
60	28	88	8	2

4 基 礎 組 織

名 称	代 表 者	会員数
支部長会	愛 沢 勉 能	38
婦人部	阿 部 豊 子	415
農青連	三 浦 秀 一	52
フレッシュミセス 小高	遠 藤 真木子	200

5 生 産 部 会

名 称	代 表 者	会員数
稲作部会	二本松 隆 雄	250
養豚部会	泉 将 鬼	22
肉牛部会	松 井 一 秋	21
肉牛繁殖部会	志 賀 存	70

酪農部会	半 杭 一 成	13
しいたけ部会	荒 木 光 彦	24
養蚕部会	末 永 誠一郎	65
果樹部会	横 田 芳 朝	
梨生産部	横 田 芳 朝	10
りんご生産部	門 馬 恒 行	4
イチジク生産部	根 本 秀 夫	15
梅	佐 藤 章	20
園芸部会	泉 田 昭	
大根生産部	泉 田 昭	45
インゲン生産部	佐 藤 文 雄	45
加工トマト生産部	渡 部 一 正	12
ニラ生産部	古 内 弘	10
うど生産部	高 橋 典 夫	26
ブロッコリー生産部	藤 田 一	25
春菊生産部	松 本 弘	42
タラの芽生産部	鎌 田 直 衛	4
ソラマメ生産部	佐 藤 三 郎	29

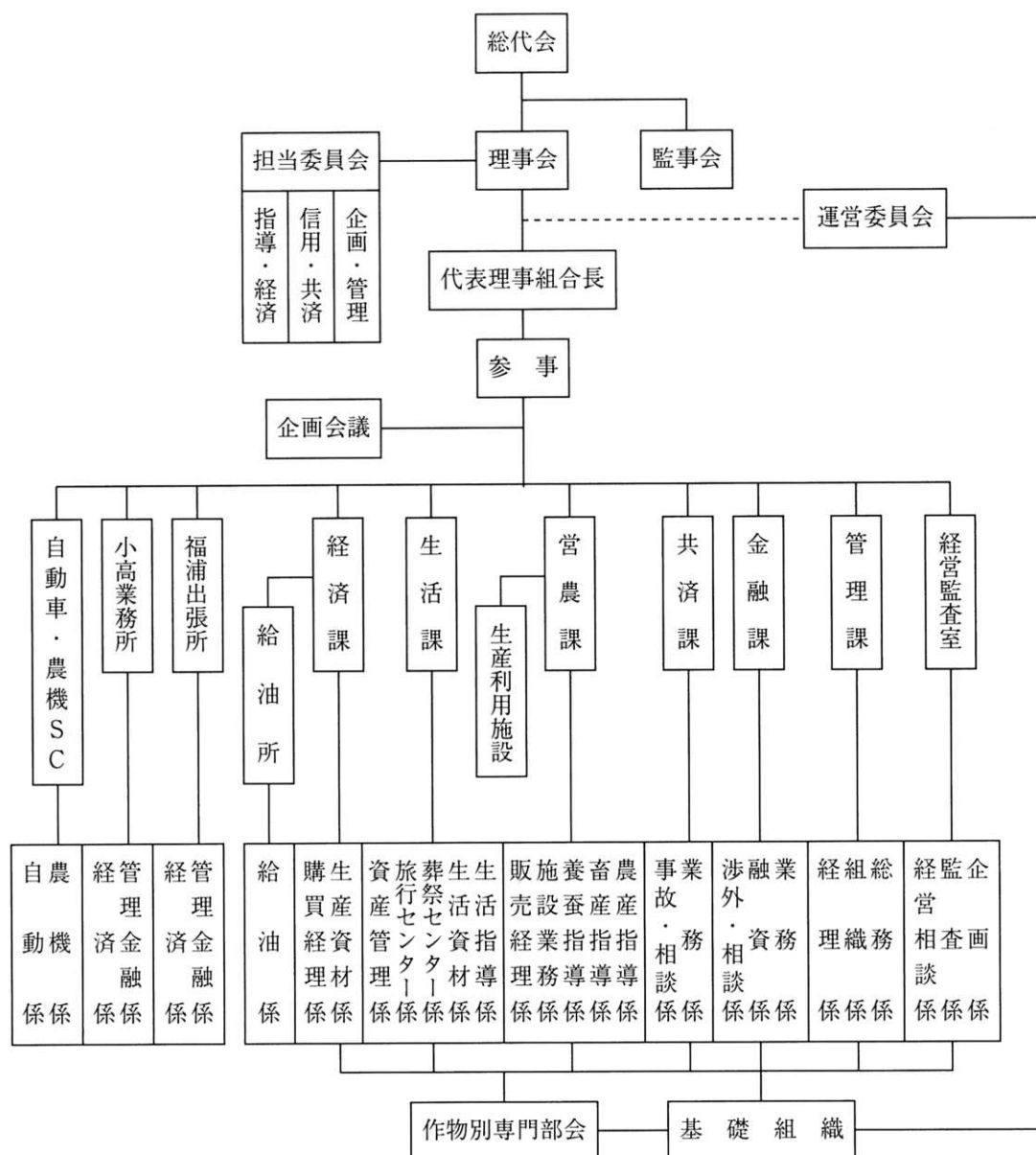
6 主 な 施 設

名 称	所 在 地
本所	西町一丁目88
福浦出張所	女場字山田190-1
小高業務所	東町二丁目29
自動車農機SC	田町二丁目1
給油所	女場字屋仲作1001-2
米倉庫 1号	西町一丁目64
〃 2号	〃 〃 88
〃 3号	東町二丁目29
〃 4号	〃 〃 〃
〃 5号	〃 〃 59
〃 6号	福岡字白山90
〃 7号	女場字中里19
〃 8号	蛭沢字江の東107
〃 9号	下浦字薬師前380
農産物加工場	飯崎字南原75

7 歴 代 組 合 長 ・ 常 勤 理 事 ・ 参 事

組 合 長	副 組 合 長
4 ～	佐々木清明
4 ～ 5	荒木 静壽
4 ～ 5	松本日出男

参 事
4 ～
木幡 堯男



小高町農協

金房農協

23～29	日下 一郎	47～50	志賀 猛
29～34	飯崎 繁暢	50～59	木幡 敏郎
34～42	吉田 廣衛	59～62	相良 文夫
42～44	鈴木 新祐	62～ 4	佐々木清明
44～47	都甲 昌彦		

福浦農協

23~56	井戸川二郎	59~4	荒木 静壽
56~59	草野 太		